

第26回

## 日本癌病態治療研究会ご挨拶

第26回日本癌病態治療研究会当番世話人

**國崎 主税**


横浜市立大学附属市民総合医療センター消化器病センター 外科 教授



春寒しだいに緩むころ、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、第26回日本癌病態治療研究会を平成29年6月1日および2日の両日にわたり、横浜マリントワーにて開催させていただくこととなりました。現在、関係者一同、鋭意準備を進めているところでございます。研究会のテーマを「敢為邁往」といたしました。目的に向かって困難をもとせず、自ら思い切って、まっしぐらに進んで行くことを表す四字熟語です。癌治療においては、さまざまな困難がありますが、しっかりと邁進し続けなければならないという思いを込めて、このテーマとしました。

主題は、「トランスレーショナルリサーチの現状と今後の展開」、「癌治療におけるバイオマーカーの開発」、「進行再発癌に対する薬物治療」、「癌治療における外科治療



の役割」「Conversion surgery の適応と治療成績」「免疫チェックポイント阻害剤の今後の展開」としました。また一般演題におきましては、癌病態解明、治療に関するさまざまな演題を広く募集いたしましたところ、110題を超える演題を頂きました。皆さまには深く深く感謝申し上げます。

横浜にはさまざまな会議場がございますが、私の記憶では横浜のシンボルでもある横浜マリンタワーにて学会が開催されたことはございません。まさに、灯台下暗しといったところでしょうか。内部は決して広くはないのですか、研究会ならではのひざを突き合わせた討議ができるのではないかと考え、マリンタワーを選びました。

主題、一般演題に加え、特別講演ならびに教育講演を企画しております。特別講演は横浜市立大学臓器再生医学 教授 谷口英樹先生にお願いしております。また、教育講演は国立がんセンター中央院 先端医療

科 先端医療開発センター 免疫療法開発分野 吉村清先生にお願いしております。お二人とも、この領域の第一人者としてご活躍されておりますので、私自身、ご講演を非常に楽しみにしております。

主題ならびに一般演題のご司会をお願いした先生方も、この領域でのエキスパートとされるご高名な先生方ばかりです。さらに、共催セミナーも先生方が興味をもって聴講していただけるように、最新的话题をお話ししていただける先生方にお願いしております。タイトなスペースでタイトなスケジュールとはなっていますが、熱の入った討議がなされることを期待しております。また、息抜きに会場近くをご散歩いただくと、横浜らしい雰囲気をも十分に味わっていただけることと思います。

最後に、皆さまの益々のご発展を祈念して、ご挨拶とさせていただきます。